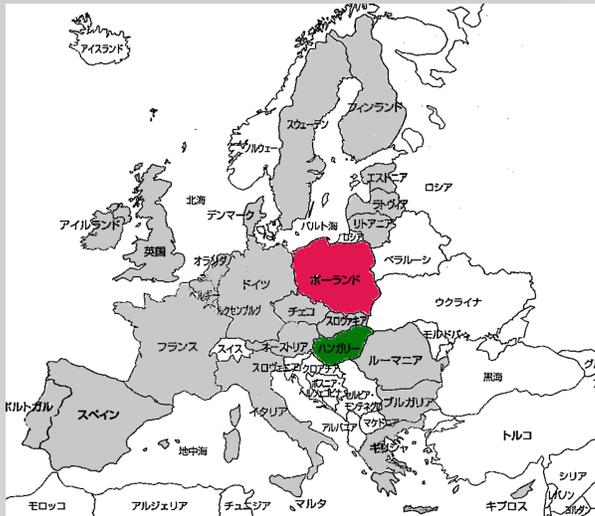


# ハンガリー、ポーランド —歴史—

## Hungary, Poland : History

## Magyarország és Lengyelország történelme

## Węgry, Polska - ich historii



現在のハンガリーとポーランド（灰色はEU加盟国）

ヨーロッパ大陸とその周辺に広大な地域的広がりをもつEUの中で、ハンガリーとポーランドは他の中・東欧諸国等と共に2004年という最近にEUに加盟した国家である。しかし歴史的には、中欧という表現が示すようにヨーロッパ大陸の中央に位置する地理的特質によって、ヨーロッパ史の中心的存在として、あるときは翻弄され、あるときはみずからの自由を切り開いていった。

ハンガリー、ポーランド共に1000年余りに及ぶ長い歴史をもち、15世紀末にはヤギェウォ王朝のもとでリトアニアやボヘミアを含めた同君連合を

形成していた時期もあった。しかし13世紀のモンゴル軍の襲来や、15世紀頃から始まる近隣のオスマン朝トルコや神聖ローマ帝国の勢力拡大によって、それぞれが異なる道を歩むこととなった。

ハンガリーはボヘミアと共にハプスブルク家の支配下にあったが、19世紀を通じたナショナリズムの進展によってマジャル人による民族的支配の要求が高まり、1867年にはオーストリア＝ハンガリー帝国が形成され、ついでヴェルサイユ体制下でハンガリー独立が実現した。ポーランドでは貴族層による一種の共和制が成立していたが、18世紀に3次にわたる隣接強国による領土分割の憂き目を見、再び国家として政治的に統合されるのは第1次世界大戦後のいわゆるヴェルサイユ体制を待たなければならなかった。

1939年の独ソ不可侵条約の結果としてポーランドは両国によって分割された。第2次世界大戦にハンガリーは枢軸国側にたって参戦した。終戦後、ハンガリーとポーランドを含む中・東欧諸国はナチス・ドイツの脅威から



ハンガリー動乱のデモ（1956年10月23日）

逃れたが、それはほとんどそのままソビエト連邦の軛に入ることを意味した。中欧諸国では社会主義体制下でも早くから改革が模索されてきた。とりわけ1980年代にはポーランドの自主労組「連帯」やハンガリーの経済改革などを通じて以前に増してソ連共産党の影響力の排除が図られていたが、86年からソ連で改革運動（「ペレストロイカ」）が始まったのを奇貨として89年に東欧諸国で連鎖的に革命が起こり、民主化が実現した。

以降、ハンガリー、ポーランドはチェコ、スロヴァキアと共に「ヴィシエグラード協力」を結び、ゆるやかに連繋して経済的発展を遂げてきたが、2004年には揃ってEUに加盟し、西欧諸国とのつながりも強化し

ながら発展の道を探っている。

# ハンガリー・アニメーション – 歴史と現在 –

## ハンガリー・ポーランドのアニメーションについて

長らく諸外国の勢力にさらされてきた中・東欧の国々では、芸術が愛国の表現としての役割も担っていました。中でも絵本や人形劇などのメディアは支配者の目につきにくいため、民族性豊かな表現や政治的諷刺を盛り込んだ作品が作られるようになりました。

こうした絵本や人形劇の伝統を基盤に、20世紀に入るとセル画や人形を用いたアニメーションが作られるようになりました。中・東欧のアニメーションは国際的にも高い評価を受け、世界で活躍するアニメーターを輩出しています。

本展示では、ハンガリーとポーランドのアニメーションの歴史、および作品をいくつか紹介します。

## ハンガリーのアニメーション

ハンガリーで初めてアニメーションが作られたのは1910年代だと言われている。1920-1930年代にかけ、教育や宣伝のための映像作品の制作を通じて、徐々にアニメーションが発展していった。

1949年に社会主義政権による一党制が成立し、映画制作会社はすべて国有化された。内容への制約やアニメーターの亡命などの困難もあったが、1960年代に入るとテレビ・アニメーションの普及に伴い、様々な作品が作られるようになった。

こうした需要の拡大を受け、国営制作会社からセルおよび人形映画部門が独立し、1968年に「パンノーニア・フィルムスタジオ (Pannónia Filmstúdió)」が誕生。1970-80年代にかけ、ハンガリーのアニメーションは黄金時代を迎える。1981年にロフス・フェレンツ監督『蠅 (A légy)』がアカデミー賞を受賞。また、アメリカに渡ったチュポー・ガーボルは、人気シリーズ『ザ・シンプソンズ (The Simpsons)』の制作に携わり成功を収めた。

しかし1989年の体制転換によりハンガリーは資本主義化の時代を迎え、パンノーニアも1993年に民営化される。1990年代はアニメーターの独立や経費の削減などにより、アニメーションの制作が停滞する状況となった。



2005年に開催されたKAFFの屋外上映会の模様

だが一方で、新たな活躍の場も広がりつつある。パンノーニアから独立したケチケメート・フィルムスタジオでは、1985年にハンガリー初のアニメーションフェスティバル「KAFF (Kecskeméti Animációs Filmfesztivál)」を開催。2003年からは国際的なアニメーションフェスティバル (AniFest) がブダペストで開催されている。現在はCGI・3Dアニメーション制作も盛んになっており、国内外のアニメフェスティバルで高い評価を受けている。

本展示では、ハンガリーで活躍するアニメーターたちの作品を紹介する。



ブダペストのモホリ=ナジ芸術工科大学 (MOME) は近年優れた映像作家を輩出している

# ポーランド・アニメーション — 歴史と現在 —

1912年、モスクワで上映されたロシア初のアニメーション映画『うるわしのリュカニダ』を作ったのは、ヴワディスワフ・スタレーヴィチというポーランド人だった。昆虫の人形をコマ撮りした本作は、人形アニメーションの先駆的存在といえる。



リプチンスキ『タンゴ』

ポーランド国内でのアニメーションの発展に大きく寄与したのが、映画スタジオ〈セマフォル〉である。原型となったのは、1947年にゼノン・ヴァシレフスキが自宅に設立した個人スタジオだった。その後1951年に国営の映画制作所に統合され、1956年に人形アニメーション部門が独立。1960年に「ちいさな映画スタジオ〈セマフォル〉 (Se-Ma-For, Studio Malych Form Filmowychの頭文字)」と改名。60年代にポーランド国営テレビの子ども向け番組でのアニメーション制作を手がけ、人気を博す。1983年にはズビグニェフ・リプチンスキ監督の『タンゴ』がポーランド映画史上初のアカデミー賞を受賞した。



〈セマフォル〉制作の人形アニメーション『こぐまのウシャテク』(邦題『おやすみ、クマちゃん』) (C) Telewizja Polska S.A.

しかし社会主義体制の崩壊により、国からの資金援助が削減され、国営であったセマフォルは1999年に「〈セマフォル〉フィルム・プロダクション」として民営化された。アニメーション制作会社として再スタートしたセマフォルは、テレビシリーズの制作に加え、国外の映画会社との共同制作にも積極的に取り組み、活躍の場を広げている。

2008年には、イギリスとの共同制作アニメーション『ピーターと狼』がセマフォル2度目となるアカデミー賞を獲得し、ポーランド・アニメーションの質の高さを世界に印象づけた。



『ピーターと狼』

本展示では、セマフォルの作品を中心に紹介する。

Polish Animation : Past and Present

Lengyel Animáció - múlt és jelen

Polskiej Animacji: przeszłość i teraźniejszość